

多摩市農業委員会だより

第 35 号

平成 25 年 1 月 1 日

編集・発行

多摩市農業委員会

多摩市関戸六―二二―一
電話〇四二―三三三―八六八四八



ほら！大きな小松菜だよ！（ウォッチングラリーにて）

記事は4面

年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。

多摩市農業委員会 会長 小暮和幸

皆様には晴れやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より農業委員会の活動に対してご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年は、夏野菜の生育期に襲った強風や、秋冬野菜の播種期における猛暑、日照りなど、厳しい条件の中で、農業者の方々には大変ご苦労されたことと思いますが、それでも市場、直売所を通じ沢山の新鮮な野菜が消費者の方に提供されたことは、皆様のご努力の賜物と考えております。

特に朝市やいきいき市などの直売所では、採れたての野菜を求め多くのお客様が訪れ、多摩センターの「福祉ショップ」や永山の「アンテナショップ ポンテ」などもあわせ、売り上げも伸びたと伺っております。

農業を取り巻く環境は、先に述べた自然環境もさることながら、高齢化等に伴う労働力不足や、後継者問題、特に都市部では、相続時における税の問題など、厳しい部分も少なくありません。

こうした状況の中、市では「担い手対策研究業務」など、労働力不足への対応を始めています。また農業委員会でも後継者問題に関連し、昨年「農業後継者育成セミナー」を開催し、農家の若い世代の方々に農業の魅力をアピールする取り組みを行いました。

今後も次代を担う農業者の皆様の後押しや、労働力不足対策への取り組みのほか、生産緑地の追加指定や、生産緑地、納税猶予制度等の維持改善への取り組みなど、多摩市の農業者の皆様が農業を続けやすい環境づくりに努めたいと存じますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

ふれあい農業推進事業 「体験農業」報告

多摩市内の五児童館と農業委員会が共催する体験農業は、平成五年來続いています。子供達が種まき苗植えから収穫までを行い、農業とはどのようなものか、そして農業の大切さを知ってもらうことを主な目的としています。五月の作付けから十月二十七日の収穫まで合計四回の畑作業を行いました。作物は永山児童館・諏訪児童館が「さつま芋と落花生」連光寺児童館が「さつま芋と落花生」東寺方児童館が「さつま芋と里芋」一ノ宮児童館が「さつま芋と里芋」でした。私は永山児童館・諏訪児童館に同行しました。植え付けでは、さつまいもは船底植え、落花生の種は横置きで最後に土

をかけて二度ポンポンと手で叩く。これが上手に作るためのコツと農業委員さんから説明がありました。九月には草取りと蔓返しをして十月の収穫を迎えました。さつまいもと、落花生にはたくさんの実が付きました。そして袋に詰めた沢山の収穫作物を持ち、お母さん達が作ったさつまいも汁を農園の中で食べました。最終日の交流会には畑を提供してくださった増田さん、萩原さん、石坂さん、小暮さん、農業委員、学生ボランティアの皆さん、子供達と保護者の皆さんがとても楽しく有意義な時間を過ごしました。

(農業委員 相澤孝一)

☺子どもたちの声

しゅうかくの時や、かかし作りの時に、おもしろかった。芋がおいしいなあ、何ほい食べてもあきないなーと思った。

(永山・諏訪 音羽ちゃん)
一年通してせいちょうのしかたや、しゅうかくのしかたをまなべ楽しかったです。おいもは全部で百こくらいでした。ほとんど取れないと思っていた里いもがたくさん取れてびっくりしました。しかも、親いもも食べられると言われびっくりしました。

(東寺方 瑠以ちゃん)
さつまいもは、今年は育ちがよかったです。雨があまりふらず、太陽がさんさんだったからです。さといもはせいいくがわるかった。雨がぜんぜんふらなかつたからで八月十五日くら

いにふる雨が八月三十日ぐらまでふらなかつたからなのだ。

(東寺方 桃花ちゃん)
うえつけをして、かんさつかいも二回して、たいへんでした。でも、しゅうかくして、いっばいとれておいしかったのがんばったかいがあつたかなと思いました。とくにさつまいもがとてもおおいかったです。さといもも、いっばいいたのでうれしかったです。さといもは、ひまごぐらいまでありました。



さつまいもの収穫 (連光寺)



落花生の収穫 (連光寺)

ぼくのうえたなえが、おおいそだつてよかつた。さつそうぬきがたいへんだった。しゅうかくのときどういうおいもがでてくるかどきどきした。

(一ノ宮 ゆうたくん)

さつまいもが大きくておおいかったです。らっかせいは、はっぱがたくさんあってこんなにそだつたんだなと思いました。さつまいもにくらべてかかったです。ししよくした、らっかせいはおいしかったです。

(連光寺 みうちちゃん)

保護者の声

出来たお芋をただ掘りに行くだけでなく、植えるところから途中経過にも参加できたのは、とても勉強になりました。親も知らないことを教えてもらって、帰ってくるので会話に力が入りました。ありがとうございます。

(永山・諏訪 宮崎さん)

中々土いじりをする機会がないので、体験農業はとてもいい企画だと思いました。約五カ月に渡り季節の変化と共に成長していく苗を見ていくのがとても楽しみでした。大きく育った野菜を収穫し、美味しく頂くという貴重な体験が出来て本当に参加してよかったです。お料理も本当に美味しく、子供達は沢山おかわりをしていました。色々

と有難うございました。

(一ノ宮 高橋さん)



暑い夏の除草作業・観察会 (一ノ宮)

初めて参加させて頂きました。まず、畑の場所が近くてびっくりしました。数分歩いただけで普段の生活と環境が変わるのです。活動自体は四回で、無理なく参加できました。子供達は、野菜を作るお手伝いが遊びの延長の様でしたが、良い体験をさせて頂きました。収穫祭では、沢山の料理を準備するのが大変だったと思います。とても美味しく、感動しました。ありがとうございました。

(一ノ宮 田口さん)

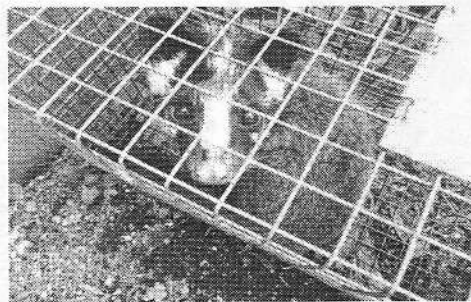
害獣捕獲奮闘記

今年の七月に諏訪でト

ウモロコシを食い荒らすハクビシンを捕獲しました。胴長五十七センチ、尾長四十五センチ、体重三三キロの大物です。毎年同じように食い荒らされ、三年目にしてやっと捕まえることが出来ました。昨年その前と明日にも収穫しようかと思っていた矢先トウモロコシを食い荒らされました。悔しさいツパイで、有害鳥獣保護許可を取っている農協に相談し、捕獲を試みましたが犯人はもう寄り付かず。今年は今手必勝。トウモロコシが実ってきたとき、まず鳥の被害がありました。すぐに農協へ話し畝を設置。鳥が

食べ始めたトウモロコシ

をもぎ取り、皮を半分剥いで餌としました。すると二日後に捕獲成功。



害獣ハクビシン捕まえた!

ハクビシンは畝の中で餌を食べつくし、近づくとも怖いほどでした。

捕獲のお勧め方法です。

その1、畝は実りの前に仕掛ける。その2、トウモロコシを狙われると思ったからトウモロコシを餌にすること。参考までに農協か

注意

ハクビシンは、一般の方が捕獲することとは出来ません。鳥獣保護法により、有害鳥獣捕獲の都道府県の許可を受けた(農協等)に捕獲を依頼してください。 ※但し、農協の捕獲許可範囲は農地のみとなっています。

から二十四年四月から十月末までの多摩市内の害獣捕獲実績を教えてくださいました。捕獲数量はハクビシン七匹、タヌキ一匹、アライグマ一匹。一番大きな害獣は最大胴長七十七センチ、体重六キロでした。(農業委員 相澤孝一)

ふれあい農業推進事業 農業ウオッチング・ラリー

十月二十八日(日)にウ

オッチング・ラリーを開催しました。多摩市農業委員会では、多摩の農業をPRし、農業者と市民との交流を図るため「ふれあい農業推進事業」の一つとして毎年実施しています。当日は、多摩市役所地下駐車場に集合し九時二十分の開会式で小暮会長の挨拶、飛び入りでの阿部市長の挨拶、事務局から収穫時、歩行中の注意を聞き出発しました。

一箇所目の関戸地区の岬さんの畑は、市役所の裏手で大きな木のある林の中のような畑で、赤カブや紫カブを五株抜きました。二箇所目の馬引沢地区の農業委員相澤さん

の畑は、周りのマンションから見下ろされるよう

な畑で、サツマイモを一株掘り上げました。相澤さんは植え付け後の天候の影響で、苗が枯れたり育ち具合を心配していましたが、そんな心配も無く大きなサツマイモに皆さん喜んでいました。三箇所目の乞田・貝取地区にある馬場さんの畑は、乞田五差路のすぐ横にあり、ここでは小松菜を二十株取りました。小松菜以外にもネギが一面に作付けされていて、皆さん感心していました。また、コースの途中でも馬場さんのホウレン草畑を見学することができました。

三箇所目の畑の収穫後、東京南農協三階で関戸地区

農業委員の小形さんの奥様他二名で用意していただいた芋煮を食べながら交流会を行いました。畠山事務局長から多摩の農業の概要、加藤職務代理からブルーベリーへの取り組みについて、また、健康推進課の栄養士さんから食育についての話がありました。



雨の中の収穫作業

終わりに農作物を提供していただいた農家の皆様、スタッフの皆様、雨天にもかかわらずご参加頂きました市民の皆様にお礼を申し上げます。

(農業委員 白井長生)

中学生の「職場体験・農作業」実習レポート

市内の中学生が、職場体験で「農業」を選び、実習すると聞いて、その様子を密着取材しました。実習先は一ノ宮の小暮和幸さんの畑です。

抽選で当てた人気の「農」

「農業体験」の希望者が多数あり、抽選で選ばれた三人の多摩中の生徒さん。聞くと「外でやる体験の方が気持ちいい」との声。しかし六月の日差しはきつく、少し動くだけで汗が噴きだします。



玉ネギの収穫作業

若い彼らはまるで耕運機のように玉ネギを掘り出し

ます。学校給食の食材として提供するとあって農家の小暮さんは神経を使っています。「もう少し丁寧に扱ってね」とのアドバイス！
「人手が欲しい収穫に大助かり」と小暮さんの奥様の声。



アドバイスを受ける中学生

おいしかった 素朴なおやつ！

ちよつと一休みに、昔からのお茶請けのシンプルな「たらし焼き」を砂糖醤油で頂きました。おいしそうに頬張る彼らを見て多摩の農業に大いに関心を持って欲しいなと思いました。

(農業委員 安斉きみ子)

「農」探訪

夫婦の絆から生まれる味噌づくり

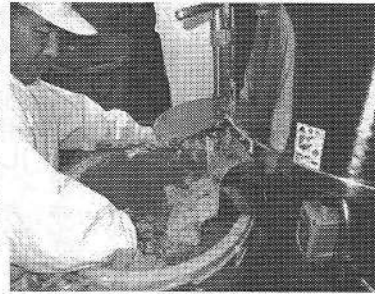
多摩市では四軒の農家が

2013年1月1日発行
 が酒米(品種若水)を生産
 製造され販売されている
 商品が「原峰のいずみ」
 (純米吟醸酒)と「原峰の
 かおり」(味噌)です。原
 峰という名の由来は、多
 摩で初めて酒造好適米を

第35号
 つくった岬さんの田んぼ
 の字名からとったもので
 す。多摩市内で生産され
 る米や麦から年間平均五
 トン、九十樽の米味噌、
 麦味噌を生産しています。
極寒の時期の
仕込み作業

正月明けの寒い時期に
 味噌の仕込みが始まりま
 す。多摩市の農業を知り
 尽くす岬さんを筆頭に三
 組のご夫婦が息もぴった
 りに作業が進みます。

コンクリートの床から
 は底冷えの冷気が、上半
 身には豆や米を蒸す蒸気
 が・味噌仕込みづくり
 の一連の作業は四日間を
 ワンクールにして二ヶ月
 繰り返されます。



酒米をムダにしない

そもそもこの味噌づく
 りは、多摩市内で質の良
 い酒米がとれ(東京では
 多摩市だけです)地酒造
 りが始まったところ、酒
 づくりを生かした米の残
 りをムダにしないために
 生まれたということです。

試行錯誤の中で

生まれたお味噌

商品として出たのは味
 噌づくりにとりかかって
 四年目からとのこと。

今は塩加減も麹の管理
 もマニュアルどおりで作
 業はスムーズに進みます。
 しかしお味噌は生き物、
 さまざまな条件で味に微
 妙な違いが生まれます。
 それがまた味噌づくりの
 面白いところだとか。



年一回の加工組合で

年次報告が

十三年目を迎えた味噌
 づくり・・・毎年十月に
 多摩市農産加工組合の年

次報告会があり、前年度
 の実績報告と今年度の事
 業計画について報告が行
 われます。年ごとに生産
 量は変化しますが、米の
 できが良くて酒づくりに
 多くの米を使用すると、
 味噌の生産は減量になる
 という両方のバランスが
 あるとのこと。

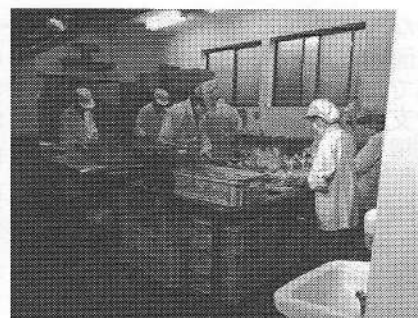
報告会の日には、今年
 仕込んだ味噌で味噌汁や
 市内産野菜を使った味噌
 料理をつくり、新味噌の
 味見をしてみようそうで
 すが、その前に新味噌の
 味見をさせてもらいまし
 た。新鮮な味噌の香り、
 まさに「原峰のかおり」
 です。

供給先は学校給食・

直売所・・・

学校給食で味噌汁など
 に使われるようになって
 八年。その味と香りは定
 評があります。また直売
 所、JA東京南各支店、

福祉ショップきずな、共
 同アンテナショップポン
 テなどで販売しています。
 一部の酒屋さんやスーパ
 ーでも販売しています。



仲良い夫婦が

かもし出す香りと味
 味噌づくりの始まりか
 らずっと一緒の三組のご
 夫婦(大田さん、柚木さ
 ん、小暮さん)と一家総
 出で支援する岬家。その
 中で出来た味噌ならではの
 できばえ。作業終了後
 の一服のお茶でのご夫婦の
 語らいが続きます。
 (農業委員 安斉きみ子)

視察研修

発行 2013年1月1日

今回は、神奈川県平塚にある観光いちご園に営の二宮敏郎（にみやとしろう）氏と神奈川県農業技術センターを視察しました。午前中は二宮敏郎氏の観光いちご園（にみちゃんいちご）訪問をしました。園の場所は小田原厚木道路、平塚インター近くの県立花と緑のふれあいセンターを含むひらつか花アグリの一画にあります。この周辺は古くから、いちご栽培が盛んに行われていた地域で、「湘南いちご狩センター」をいちご栽培農家五軒で運営しており、その一員が二宮敏郎氏です。年齢は五十八歳、経営農地は水田五百アール・野菜畑三十アール・いちごハウス九棟（三十アール）家族経営で、本人、奥様、父親、

息子の四人で繁忙期は親戚が手伝っています。いちご栽培は本人、畑は父親、機械は息子が主に担当しているとの話であり、水田の五百アール（地区平均七十アール）はこの地区で一番だそうです。丹沢水系の用水を利用し、キヌヒカリを栽培、畑ではネギ、里芋を主に栽培しています。



にみちゃんいちごハウスにて

いちご栽培は鉄骨ハウスで無農薬栽培フェロモン剤等を使用し、肥料は堆肥のみを使用、品種はおいしいベリー、とちおとめ、さちのか、やよいひめ、の四種類、いちご園の営業は

土日のみで、摘み取り時間三十分料金千五百円、申込みはインターネット等で行っています。いちごの摘み取りシーズンは一日千人程が訪れるそうです。二宮氏は二十代の時に米国に一年半ほど農業研修に行くなど行動力があり、農業経営においてもハウス等の管理、張替、修理等を家族で行う事が出来る様に設計、工夫、いちごは苗から自家栽培をして、作物のライセンス等には注意を払い労力や仕事効率を考え経費も計算しながら農業経営をしているのが話を聞いていて良くわかりました。また、いちご農園のある地域は湘南の海や小田原厚木道路のインターが近く、市民農園・県立のバラ園・農業体験施設・食事場所・駐車場・農協の販売所が集まっている所であり知名度が上がればもつと集客が見込めると思

えました。午後は、神奈川県農業技術センターの視察で、神奈川県はこのセンターを含み八ヶ所の事務所等を持ち、農業経営・品質情報・栽培システムの研究・野菜・作物・果樹・花き・農業環境の研究・病害虫防除等の指導・発生の予防・畜産の研究・普及指導・農業の担い手育成・新就農者の支援を行っていているとの事でした。当センターでは湘南ゴールドの開発について説明があり、現在は湘南ゴールド振興協議会を立ち上げパートナー等でのイベント・販売促進・加工品の開発等を行い、これらの連携もはかっているそうです。また、品質評価技術の開発等では、切らないで糖度が解る非破壊糖度計（てんすい）を開発しているとのこと。梨の樹体ジョイント仕立法に関する試験を行って



梨のジョイント仕立法を視察

いるとの説明の後に試験農場で現物を見る事ができ大変面白かったし、この仕立て法が普及すると花粉付け・剪定・農薬散布・収穫が楽になるところが良くわかり、他にも色々な試験研究が今後いつ役に立つ様になるのか興味深かったです。また、隣の県で横浜など大都市を持っているても農業県で東京都より農業については色々な面で支援体制が整っている事を実感する事ができました。

（農業委員 小形利雄）

農業委員会委員選挙人名簿

登録申請書の提出をお願いします

農業委員会の選挙人名簿は、選挙人の申請に基づき毎年一月一日現在でその選挙資格を調査し、選挙人名簿を調整することとされています。

2013年1月1日発行

第35号

多摩市農業委員会だより

- 1 【住所要件】
多摩市内に住所を有する方。
- 2 【年齢要件】
平成二十五年三月三十一日現在で満二十歳以上の方。
- 3 【経営規模等従事要件】
次の(1)~(2)のいずれ

かに該当する方。

- (1) 十アール以上の農地を耕作されている方。
(農地面積には、市外の出作農地も加算されます。)

- (2) (1)の方の同居親族または配偶者で、年間約六十日以上耕作に従事している方。

○提出期限

平成二十五年一月十日

○お問合せ先

農業委員会事務局

電話 338-6848



◎利用状況調査の実施

毎年一回、区域内の農地の利用状況について調査をすることになりました。調査の結果、耕作の目的に供されておらず、引き続き耕作の目的に供されないの見込まれる農地や農業上の利用が周辺の農地の利用程度に比べ著しく劣っていると認められる農地がある時は、農地の所有者等に対し、農業上の利用増進を図るため必要な指導をすることになります。

◎農地の肥培管理

多摩市では、市内を三区域に分け、十一月月上旬に地区担当委員等により農地利用状況調査を実施しています。昨年の結果では概ね適正に農地利用がなされておりませんが、一部に肥培管理上注意を要する農地も見受けられました。特に生産緑地地区内農地は、税制上の優

遇措置を受けておりますので、農地の適切な肥培管理をお願いします。

◎相続により農地の権利

を取得した者の届出

相続等で農地の権利を取得した者は、相続からおよそ十ヶ月以内に農業委員会へその旨を届出なければなりません。

農地相続が生じた際は

農業委員会事務局まで

多摩市都市農業推進補助金

栽培施設、加工施設、出荷施設などの整備費用の一部を補助します。

補助対象者は、経営耕地が生産緑地含み10アール以上の方、認定農業者の方、エコファーマーの方など。

補助対象事業等、詳細はお問い合わせ下さい。

多摩市役所 経済観光課
電話 338-6848

農業功労者感謝状

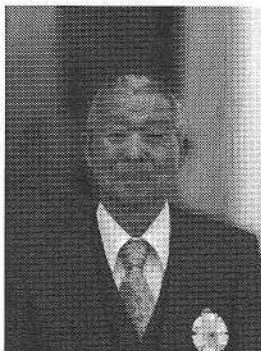
杉田輝夫さん

受賞おめでとう

1月21日

昨年二月二十九日に昭島市民会館大ホールで開催された第五十三回東京都農業委員・農業者大会において杉田輝夫さん(東寺方)が栄えある賞を受けられました。

杉田さんには、地域農業の振興に多大なご尽力を頂いたことに感謝の意を表し、東京都農業会議から農業功労者感謝状が授与されました。



農業委員会
活動日誌

第四回定例総会

【五月】

南多摩地区農業委員会
協議会〔町田市〕

【七月】

東京都農業会議区市町
村賛助員協議会〔渋谷
区〕

【八月】

体験農業〔永山・諏訪、
連光寺、一ノ宮、東寺
方作付け作業〕

【九月】

農業委員会会長職務代
理研究会〔渋谷区〕

【十月】

第五十三回東京都農業
委員・農業者大会〔昭島
市〕

【十一月】

全国農業委員会会長大
会〔千代田区〕

【十二月】

体験農業〔永山・諏訪、
連光寺、除草等・観察会〕

【一月】

体験農業〔永山・諏訪、
連光寺、一ノ宮、東寺
方、除草等・観察会〕

【二月】

体験農業〔永山・諏訪、
連光寺、一ノ宮、東寺
方、除草等・観察会〕

【三月】

東京都農業会議通常総
会〔渋谷区〕

【四月】

第三回定例総会

【五月】

農業後継者育成セミナー

【六月】

第六回定例総会

【七月】

第八回定例総会

【八月】

第九回定例総会

【九月】

第十回定例総会

体験農業〔一ノ宮、除草
等・観察会〕

【七月】

南多摩地区農業委員会
協議会広域連携会議〔
八王子市〕

【八月】

制度農地肥培管理農地
パトロール〔市内全域〕

【九月】

広報研究会〔渋谷区〕

【十月】

第七回定例総会

【十一月】

南多摩地区農業委員研
修会〔日野市〕

【十二月】

東京都農業会議通常総
会〔渋谷区〕

【一月】

体験農業〔永山・諏訪、
連光寺、一ノ宮、東寺
方、除草等・観察会〕

【二月】

第九回定例総会

【三月】

第十回定例総会

【四月】

体験農業〔連光寺、東
寺方、収穫交流会〕

【五月】

第十回定例総会

【六月】

農業委員会会長現地研
究集会〔岐阜県岐阜市〕

【七月】

体験農業〔永山・諏訪、
一ノ宮収穫・交流会〕

【八月】

農業ウオッチング・ラ
リー〔関戸・馬引沢・
乞田貝取〕

【九月】

南多摩地区農業委員会
視察調査〔葛飾区〕

【十月】

農地利用状況調査〔市
内全域〕

【十一月】

東京都農業会議区市町
村賛助員協議会〔渋谷
区〕

【十二月】

多摩市農業委員会視察
研修〔神奈川県平塚市〕

農業委員会活動推進フ
ォーラム〔府中市〕

【一月】

第十一回定例総会

【二月】

農業者年金制度推進研
究会〔渋谷区〕

【三月】

全国農業委員会会長代
表者集会

【四月】

意見交換会

【五月】

第十二回定例総会

【六月】

編集後記

最近、皆さんが市内
の農作物に安全、安心
を求め、その必要量も
益々増えていることを
強く感じます。その一
方で多摩の田畑は減少
し続けています。

農地、農業の大切さ
をお伝えすることも農
業委員会の使命と思
い、委員会だよりを編
集しました。

編集委員

白井長生 小形利雄
安斉きみ子 相澤孝一